

# 没後120年 エミール・ガレ展

## 奇想のガラス作家

Émile Gallé: The Inspirational Glass Artist



①エミール・ガレ  
《花器(アザミ)》  
1900年  
個人蔵

### ～開催概要～

2024年4月6日(土)～6月9日(日)

前期:4月6日(土)～5月6日(月・休)

後期:5月8日(水)～6月9日(日)

※会期中、一部展示替えがあります

**開館時間:**午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) \*毎週金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

**休館日:**月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)、4月30日(火)、5月7日(火)

**入館料:**一般 800円(640円)、大学生640円(510円)、

高校生・60歳以上400円(320円)、小中学生100円(80円)

\* ( )内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 \*土・日曜日、祝・休日は小中学生無料

\*毎週金曜日は渋谷区民無料 \*障がい者及び付き添いの方1名は無料

**【リピーター割引】**観覧日翌日以降の本展会期中、有料の入館券の半券と引き換えに、通常料金から2割引でご入館できます。

**主催:**渋谷区立松濤美術館

**協力:**ベル・デ・ベル

**企画協力:**アートプランニング レイ

※会期や開館時間、イベント等変更する場合があります。最新情報は当館ホームページ等でご確認ください。

### 報道関係のお問い合わせ

広報担当 : 西・木原・野城(pr-sma@shoto-museum.jp) 展覧会担当: 野城・西

電話 : 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

\* 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。\* 画像のご利用後、データは破棄してください。

\* 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとしてください。\* 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。

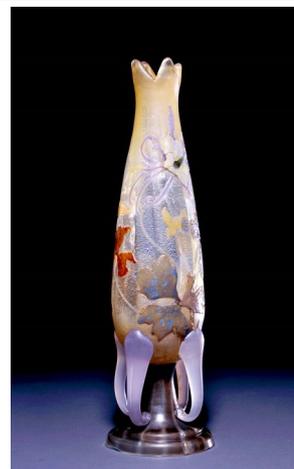
\* 掲載後、掲載誌をご送付いたしますようお願いいたします。

★展覧会概要

エミール・ガレは、19世紀末のヨーロッパで花開いた装飾芸術運動「アール・ヌーヴォー」の旗手のひとりとして知られる工芸家です。ガレは、草花、昆虫などをモチーフにした美しい曲線と鮮やかな色彩が特徴のガラス作品を数多く制作し、ガラス工芸を芸術に高めた作家でした。可憐でありながら、エネルギーみなぎるガレの作品は、日本でも人気が高く、国内の多くのコレクターから愛されてきました。

ガラスの天才・ガレの没後120年を記念して開催される本展は、これまで紹介される機会が少なかった国内の個人コレクター所蔵の貴重な作品を中心にガレの足跡を紹介していきます。

芸術はもとより、文学、植物、鉱物などの幅広い知識を有しながら、それを生かしてガラス作家、アートディレクター、植物学者として多彩な活動を展開したガレ。多岐にわたる仕事の中で自然美を追求していく情熱と信念を持ち続けたガレの生き方は、さまざまに変化する時世を生きる現代の私たちに大きな力を与えてくれるでしょう。



②エミール・ガレ《花器(オダマキ)》  
1898-1900年  
ヤマザキマザック美術館蔵



③エミール・ガレ肖像写真 1889年

～ エミール・ガレ(1846-1904) ～

1846年、フランス、ナンシーでガラス・陶器製造販売店を営んでいた父・シャルルの長男として生まれました。家業を継ぎ、経営者としての手腕を発揮する一方、フランスを代表するガラス作家として活躍しました。

その作品は、ジャポニスムや象徴主義といった当時の美術界の動向や、文学・植物学・鉱物学の知識をとり入れた独創的なものでした。特に、自然から着想を得た作品は、世紀末の工芸運動であったアール・ヌーヴォー、とりわけナンシー派の牽引者となりました。

それまでガラス工芸は、「芸術の飾りをまとった道具」という意味で応用芸術(小芸術)のひとつとされ、絵画や彫刻(大芸術)よりも格の低いものとみなされてきました。ガレが制作したガラス工芸は、単なる道具ではなく、芸術性を持った作品と認識されていくのです。

★展覧会構成

第1章

奇想のデザインを世に問う気鋭の  
工芸作家出現

ガレはドイツ、ワイマールのイェーデ・シュテグマン建築工芸研究所で素描やデザインを学び、フランス、マイゼンタールのガラス工場で実践的な修行を積みました。その後、家業でもガラスや陶器のデザインを手がけていくようになります。幼少期より、歴史・語学・文学・哲学・植物学などの幅広い学問に触れ、深い教養をもちあわせていたガレは、その知識をデザインに昇華させていきます。

本章では、中世やルネサンス、ロココの美術様式から着想を得た初期作から、日本や中国といった東洋の文化から影響を受けた作品などを紹介します。また、父からガラスとともに受け継いだ陶器にもガレ独自の世界が展開する様子も取りあげます。

さらに、ガレは31歳でナンシー中央園芸協会の事務局長に任命されるほどの植物学者でもあり、植物や昆虫をモチーフとした作品も制作していきます。奇想のデザインの源にある自然への眼差しと情熱が感じられるでしょう。



④エミール・ガレ《月型小物入れ》  
1880-84年 個人蔵



⑤エミール・ガレ  
《猫型置物》  
1865-90年代  
松江北堀美術館蔵

## 第2章

### 深化を遂げる思索の造形

ガレは、父から経営を引き継いだ会社で実用食器などの製造に従事する一方、芸術性の高い「作品」としてのガラス工芸も手がけていきます。そして、同時代の美術運動や社会問題に対しても敏感に反応し、自身の作品へ積極的にとりいれました。

例えば、19世紀のフランスでは、人間の内面世界を表そうとする象徴主義という美術運動がおこりました。ガレもその影響を受け、「物言うガラス」の制作をはじめます。このシリーズでは、シェイクスピアやボードレールなどの詩文の一部をガラスに刻み込みました。暗示的な雰囲気を出した作品は好評を得ます。

他方、ガレはこれらの表現を実現するために、グラヴェール彫刻(ガラスの表面に複雑な凹刻を施す技術)を追求することで、画家の筆さばきに比肩する柔軟な表現を可能にしたほか、植物学への造詣もますます深めていきます。

芸術性、技術、知識が結集したガレの作品は、1889年のパリ万国博覧会などで高く評価をされ、芸術作品のひとつとして認識されていきます。本章では、その足跡をたどります。



⑥エミール・ガレ  
《脚付杯》  
1889年  
個人蔵



⑦エミール・ガレ  
《花器「地質学」》  
1889年 個人蔵



⑧エミール・ガレ  
《蓋付函》  
1882年頃 個人蔵



⑨エミール・ガレ  
《花器(プリムラ)》  
1900年頃  
個人蔵



⑩エミール・ガレ  
《ランプ(ツバメ)》  
1902-04年頃  
個人蔵



⑪エミール・ガレ 《花器(ソテツ)》  
1900-04年頃 個人蔵

## 第3章

### 花開くアール・ヌーヴォー様式

自然から着想を得た有機的・曲線的な造形が特徴であるアール・ヌーヴォーの流行は、1890年頃からヨーロッパ各地で同時多発的に始まりました。ガレも1890年代に入るとこの傾向を強め、植物や昆虫の表現をより洗練させていきます。

また、ガレは名声の高まりによって増大した需要に応えるために1894年に新工場を竣工し、新技術の開発にますます力を注いでいきます。多様な加工技術を編み出したことで複雑な表現が可能となり、表現・技術ともに高度な作品を生み出していきました。

長年のたゆまぬ努力が実を結び、1900年、ガレにとって3回目のパリ万国博覧会において、ガラスと家具の二つの部門でグランプリを獲得しました。

晩年は病魔と闘いながら、ランプの制作に取り組むなど、歩みを止めることなく最後まで表現の道を突き進みました。1904年に逝去しますが、没後もその人気は衰えず、現在も多くの人を魅了しています。

本章では、アール・ヌーヴォーの特徴が色濃く感じられる作品をめぐりながら、晩年のガレの姿を追うとともに、彼の亡き後に制作された作品を紹介します。

## ★関連イベント 事前申し込み制

### ①記念講演会

「エミール・ガレのガラス工芸／奇想と黙示の象徴芸術」

4月27日(土)午後2時～(約1時間30分)

地下2階ホール

講師:鈴木潔氏(本展監修者、美術史家)

※無料(要入館料) ※定員70名

### ②特別ワークショップ

「キラキラ☆宝石石けんをつくろう」

エミール・ガレの作品をイメージした観賞用石けんをつくります

5月11日(土) 地下2階ホール

A:午前10時30分～12時30分

B:午後2時～4時

各回定員8名

講師:Junko氏(石けん作家)

対象:小学生以上(小学生は保護者の同伴をお願いいたします)

※制作時間は約2時間

※無料(要入館料)

※汚れてもよい服装、またはエプロンをご持参のうえお越しください

### ③春のピアノコンサート「エミール・ガレ展によせて」

5月19日(日)午後2時～(約1時間) 地下2階ホール

講師:高橋絵里子氏(ピアノ奏者)

※無料(要入館料) ※定員70名

### ④昼さがりのアートレクチャー

「エミール・ガレ展開催について」

5月26日(日)午後2時～(約1時間) 地下2階ホール

講師:本展担当学芸員

※無料(要入館料) ※定員70名

### 【上記イベントの申し込み方法】

往復はがきまたは下記の申込フォームにて承ります。

【往復はがき】

〒・住所・氏名(ふりがな)・日中連絡のつく電話番号・参加希望のイベント名(②ワークショップの場合はAかBを選択)をご記入の上、「エミール・ガレ展イベント係」まで。

【申し込みフォーム】

当館ホームページの①～④各イベントフォームからお申込みください。

※切 ①記念講演会は4月8日(月)②ワークショップは4月19日(金)③コンサートは4月26日(金)④アートレクチャーは5月7日(火) いずれも必着

※1通または1回のお申込みにつき1名のみ申込可。応募者多数の場合は抽選となります。

※迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に当館からのメール「@shoto-museum.jp」が受信できるようにドメイン設定をお願いします。

## その他イベント ※事前申し込み不要

### ◆ガレ風 プラ板リングをつくろう!

プラ板で指輪をつくるワークショップです

6月1日(土) 午後2時～材料がなくなり次第終了

地下2階ホール

作業時間:約15分

※無料(要入館料) ※小学生以下は保護者の同伴をお願いいたします

### ◆展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

4月12日(金)、4月20日(土)、5月5日(日・祝)

各日午後2時～(約30分)

※無料(要入館料)

### ◆館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

4月12日(金)、19日(金)、26日(金)、5月3日(金・祝)、

10日(金)、17日(金)、24日(金)、31日(金)、6月7日(金)

各日午後6時～(約40分) ※無料(要入館料) ※各回定員20名

## ◎交通案内



・京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分

・JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

### 次回展覧会のご案内

## 111年目の中原淳一

6月29日(土)～9月1日(日)



©JUNICHI NAKAHARA / HIMAWARIYA

中原淳一《表紙原画(『それいゆ』第39号)》1956年 個人蔵